

東海村まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価に対する

委員コメント

東海村まち・ひと・しごと創生総合戦略（第２期）の評価

基本目標１ 多様な世代から選ばれるまちづくりの推進

（１）指標の進捗状況

- ・人に勧めたいという人の割合についても数値化したほうが良い。
- ・数値の分析をしたうえで、取組を発展させてほしい。
- ・東海村に住み続けたいと考えている住民の割合については、調査対象を若い人に絞って調査したほうが良い。

（２）主な取組と評価

- ・ふるさと納税推進事業については、体験型のふるさと納税の仕組みを作ると良い。
 - ・ウォークアブルなまちづくりの推進については、ユニークなコースなど歩きたくなるようなまちづくりが必要だと思う。
 - ・6・3・3の子どもの世代間交流により、愛着がわくことにつながる。
 - ・農業体験ができれば、食育につながり、農業を活用できるまちづくりができると思う。
 - ・若い世代が子育て支援の情報を早い段階で得られるように啓発できれば良い。
 - ・村がわかものから選ばれているかは疑問である。
 - ・住むところとしては選ばれていると思う。
- とうかい住まいる応援事業については、周辺の自治体でも同様の取組があるため、ユニークな施策があると良い。
- ・村内にもっと遊ぶところがあれば良いと思う。

基本目標２ 若い世代が安心して子育てできるまちづくりの推進

（１）指標の進捗状況

- ・安心して子どもを産み育てられる満足度については、世代別で数字を見る必要がある。

（２）主な取組と評価

- ・子育ては保育所がクローズアップされるが、小学校に入った後のケア（学童等の放課後支援）が大切である。

- ・親と子どもが一緒にいられることは大事であり、かけがえのない時間である。そうした時間を生むためには、企業側の配慮が必要。村の働きかけも重要となる。
- ・雨天時でも遊べる場所があったほうが良い。
- ・保育所等の整備は大事だが、村にはより保育所の安全性を高めて、親が安心して働けるようにしてもらいたい。
- ・子育て世帯に向けた強化支援パッケージについては、相談する場所があるのは良いが、相談に応じる職員は同じ人が良い。

基本目標3 誰もが生き生きと働き、活躍できるまちづくりの推進

(1) 指標の進捗状況

- ・50歳未満における農業就業人口については、若い世代の現状維持ではなく、さらに高い目標でも良い。また、計画中に検証できない数値目標の設定が適切かは考慮すべき。
- ・従業員数について、村内の工業団地はほぼ立地済であり、従業員数は頭打ちとなっているため、個人での起業を増やす必要がある。

(2) 主な取組と評価

- ・新たな人材確保に向け、原子力産業をもっと活用すると良い。村も働きかけをし、働く場の提供から住む人が増えれば良い。
- ・原子力を学ぶ学生も減ってきているため、キャンペーンを行うと良いと思う。
- ・宇宙船ミュオンによる古墳探求プロジェクト推進事業については、面白い取組であり、学校の授業の一環にするなど広く展開できれば良い。

令和5年度デジタル田園都市国家構想交付金事業評価

○電子図書館導入整備事業

- ・学校との連携があったほうが良い。
- ・郷土資料が電子化するのは良い。
- ・新しい資料もあると良い。
- ・KPI の利用数の数え方がログイン数であるため、同じ人が何度もログインしている可能性もあり、正確な利用数が把握しづらい。
- ・年代別の利用者数，満足度が分かると良い。

○つながる茨城チャレンジフィールドプロジェクト

- ・KPI の関係人口の測定方法が不明確。
- ・実際にインターンに来て，企業を受けたというデータがあると良い。

○いばらきサイクルツーリズム推進強化事業

- ・サイクルツーリズムの活動は認知度が低いと思う。
- ・自転車を所有していないと参加できないため，参加者が限定される。